

第4学年 道徳学習展開案

令和4年11月2日（水）第5校時

杉並区立高井戸第二小学校 4年2組28名

授業者 ●● ●●

1 主題名 自分らしさ（内容項目 A 個性の伸長）

2 ねらいと教材

自分の長所に気付き、それを伸ばしていこうとする心情を育てる。

教材「うめのき村の四人兄弟」 東京書籍 新しい道徳 4年

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について

児童は普段の生活の中で、あまり自分の長所についてじっくり考えることなく生活している。むしろ、もっと計算が速くできるようになりたいとか、もっと友達にやさしくできるようになりたい、とか、親から、もっとこうしなさいと言われることの方が多いのが現状である。自分にはこんな長所があるのだと気付くことで、自己肯定感が育まれると考える。また、他者との関りの中で、自分では気付けなかった自分の長所について自覚することができる。そして自分の長所をさらに伸ばし、その長所が、人や社会のためになることで、もっと伸ばしていこうという気持ちをもつことができると考える。長所に気付き、伸ばしていこうとする心情は、これからの人生をよりよく生きることにもつながると考える。この学習で様々な角度から自分を見つめることによって、自分の新たな長所に気付いたり、長所の活かし方に気付いたりして、長所を伸ばそうとする心情を育てていきたい。

（2）児童の実態

自分の長所に気付き、長所を伸ばそうとする心情が育つように、道徳以外の指導としては、次のようなものがある。

① 各教科等での指導

授業などで人の話を聞く時には、3年生のときから「うめうし」（㊦なずいて、㊩を見て、㊪ストまで、㊫生懸命に、㊬マイルで）を意識して取り組んでいる。

4年生になり、対話を行う相手をさらに意識するために「うめうし」と「吹き出しマックス」を取り入れて行っている。

「うめうし」は、㊦なずく、㊩を見る、㊪け止める、㊫問する、の頭文字をとったものである。相手と対話する際には、相手が何を伝えたいのかを考えながら聞いて理解し、最後に質問できるとよいと考え、取り組んでいる。

「吹き出しマックス」は、話し合い活動のときに、話し合いが深まったり、分かり合ったりできそうな言葉を集めて、貼り出したものである。話し合い活動のときには、「吹き出しマックス」のボードを置

き、参考になるようにしている。

② 日常の学校生活の中での指導

帰りの会で、「いいところ発表」に取り組んでいる。日常の学校生活の中で、友達のいいところを発見し、それをみんなの前で発表することで、友達の知らなかった一面や意外な一面がわかる。発表された本人にとって、その内容が自分で意識していたいいところとは限らない場合もある。友達の発表から初めて気付くこともあるかもしれない。他者から見た自分のいいところに気付き、そのことを自覚し伸ばしていったほしいと考える。

しかし、児童は日ごろかかわりの深い友達のいいところは容易に見つけて発表できるが、あまりかかわりのない児童については、いいところを見つけて発表するのは難しいところがある。そこで、学級活動の時間を利用して、次のような取り組みを行った。

③ 学級活動での指導

学級活動で、「みんなの長所さがし」を行った。クラス全員分の長所と思うところをワークシートに書き、それぞれのいいところを意識させ、クラスの友達にはこんなにいろいろといいところがあるのだと実感できるようにした。そのワークシートをベースに、道徳の授業で使用する「長所カード」を作成した。もらったカードは1枚のシートに貼り付けられるようにし、自分の長所について振り返られるように工夫する。

このような活動を通して、クラスの友達の長所を考えられるようになってきた。一方でまだまだ自分の長所に気付くことが難しい児童もいる。そこで、自分自身で自覚している長所と、他者から見た長所をじっくりと考えさせ、それをどのように伸ばしていくのかを考えさせたい。

(3) 教材について

本時においては、自分の長所に気付き、それを伸ばしていこうとする心情を育てるために、他者から見た自分の長所について、じっくり考えさせたい。

そこで、道徳的価値を重視して、うめのき村の四兄弟の長所を確認し、それを生かして村の危機を救い人々の役に立ったことをおさえたい。そのうえで、友達の長所を知らせ、自分自身の長所を深く考え、道徳的価値の理解に迫っていききたい。

道徳的価値の理解に迫るために、自分の長所のフィードバックを受ける機会をより多く経験し、自己との対話を行えるような学習展開をとることとした。

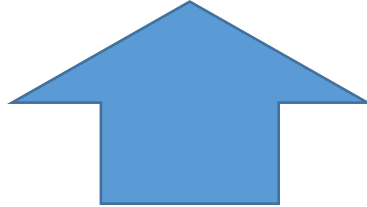
学級活動で「みんなの長所さがし」を行った際の「長所カード」の交流を行うことによってひとりひとりの児童が友達からのフィードバックを得られる機会が多くなるように工夫をした。またより多くのフィードバックを得た状況で自分の長所について考えることによって自分を多角的に見たり、自分の特徴を多面的にとらえたりすることができると思った。

本時の終末では自分の長所について見つめる時間を十分に確保し、自分自身の長所について深く考えられるように学習展開を工夫していく。

4 研究主題に迫る手だて

＜校内研究主題＞
協働的に学び、自分の考えを深める児童の育成 ～指導法の工夫を通して～

＜ 中学年分科会 目指す児童像＞
相手の話を受け止めて、違いを大切にできる児童



(1) 主体的に取り組むための手だて

① 学級活動での取り組み

児童の実態にも記したように、学級での常時活動が本時の活動につながり、積極的に長所を伝えようという主体性を生むと考える。

② 安心感のある伝え合い

学級活動を通して全員が全員に思いを込めて書いていること、意図的なグルーピングにより、対話が成立する相手と試せること、またそのやりとりの際に「うめうし」や「吹き出しマックス」があること、この3つの安心のもと、児童が主体的に長所カードの交換ができると考える。

(2) 協働的に取り組むための手だて

① 相手の話を受け止めて、違いを大切にできる環境づくり

自分から見た自分、友達から見た自分の姿を見ることで、友達の考えも通して自分の長所について深く考えられると考える。長所カードを一人一人に向けて書く活動、友達と長所カードを交換して伝え合う活動、いずれも広い意味での協働と捉えた。また、本時では、その結果が終末の自分の長所をふり返るところに書き表されるのではないかと考えた。

② 学級全体で簡易的に意見を集約し、視覚化を図る

学級の意見の全てを集約して学習を進めることは難しいが、自分の意見の立場を簡易的に表現し集約することで、児童が意図をもって意見交流をする相手を選べるようにした。登場人物の葛藤の場面を自分だったらどうかという軸に表した（気持ちメーター）や、意見によって紅白帽の色を変えて立場を明らかにした。視覚的に意見を集約し、意見交流をしやすい環境を設定するように配慮した。

5 本時の学習

(1) ねらい

自分の長所に気付き、それを伸ばしていこうとする心情を育てる。

(2) 展開

○学習活動 ◎授業者の推し ・予想される児童の反応	○教師の手だて 《主》主体的に取り組むための手だて 《協》協働的に取り組むための手だて ◆評価（評価方法）
1. 「うめのき村の四人兄弟」を読んで話し合う。【8分】 ○範読を聴きながら読む。 ○読み終えた後に内容整理を全体で行う。 四人兄弟の長所、大嵐の日にしたこと …四兄弟が力を合わせて村のピンチを救う。 …四人兄弟それぞれの長所を生かして嵐を乗り越える。 …自分の長所が役に立って嬉しい。	○四人兄弟の長所、大嵐の日にしたことを整理することで、四兄弟のみんなが自分の長所を生かして、村のピンチを救ったことをおさえる。 （自分の長所を生かして、4人で協力して村を守れたことやおとうに褒めてもらえたことを通して、長所が人の役に立てることは嬉しいことだと気付かせるようにする。） ○自分の長所について考えることを伝え、学習問題を黒板に提示する。
◎自分の「長所」について考えよう。	
2. 自分の長所は何かを考える。【2分】 ・すすんで当番活動に取り組む。 ・みんなに声掛けができる。 ・優しい。 ・困っている人を助けることができる。 ・字を丁寧に書くことができる。 ・周りに気を配ることができる。 ・絵を描くのが得意なところ。	○「〇〇さんの長所カード」を渡す活動の前に自分の長所を考えることで、改めて自分の長所を振り返るときに生かせるようにする。
3. 「〇〇さんの長所カード」を交換し、伝え合う。【20分】 ○グループで友達の長所を伝える「〇〇さんの長所カード」を渡す。（5分） ○グループでの活動終了後、渡したい相手を自由に選んで「〇〇さんの長所カード」を渡す。（15分）	○事前にクラス全員の長所カードを記入しておく。 ○上手なやりとりを全体で確認する。 ○最初に意図的に設定したグループで、エピソードを伝えながら渡し合う活動をする。 ○1対1で行うこと、カードをもらった側は感想

	を返す等、伝え合いで大切なことを確認する。 ○グループの伝え合いを終えた後、上手なやりとりをしていたペアを紹介し、自由交流で生かせるように声掛けをする。 《主》児童自身が自分からすすんで長所カードを渡しに行っている。
4. 活動を踏まえて自分の長所について考える。【15分】 ○自席に戻り、もらったカードを読む。 ◎この授業で自分の長所についてどう考えたか、これから自分はどうしていきたいかをワークシートに記入する。（10分） ・自分が思った長所とは違うことを書いてくれた友達がいって嬉しかった。 ・自分の長所を生かせる場面があったら生かしていきたい。 ・同じ長所でも、理由が違っていてびっくりした。 ・自分がマイナスに思っていたことを友達が長所として認めてくれてうれしかった。 ・友達が困っていたら、優しく声をかけて助けてあげたい。 ・周りに気を配り、困っている人を助けたい。 ・すすんで当番活動に取り組んで、みんなのお手本になりたい。 ○記入した内容を発表する。（5分）	○終わった人は席に座り、もらったカードを読むように伝える。 ○もらったカードを読む時間を設けることで、改めて自分の長所について考えるときにしっかりワークシートに書くことができるようにする。 ○振り返りを書く前に、自分の「長所」について考えてきたことや色々な気づきがあったということを確認する。 ◆互いの良さを認め合う気持ちや自分の長所をさらに伸ばしていこうとする気持ちについて考えている。（発言、ワークシート） 《協》友達と長所カードを交換したことが自分の長所について深く考えることにつながっている。

6 本時の手だて

(1) 主体的に取り組むための手立て

①安心して伝え合える環境づくり

児童が互いに長所を使え合うことで自分の新たな長所に気付いたり、自分の長所を見つめ直したりすることを達成したい。そのためには他者とのかわりが必要不可欠である。そのために意図的なグルーピングで意見を発表する経験をして発表の仕方を学んだり、うなずく、目を見る、受け止める、質問するを意識した意見交換を多く経験したりすることで安心して意見を発信できる土壌を作る。その活動の中でよかった交流を取り上げて経験、方法の両面での安心感をもって全体での意見交換に臨むようにしたい。

本時では、カードをもらえずに活動が終わってしまう児童やカードを上手に渡せない児童がでないように、意図的グルーピングでの活動での意見交換の方法を知った後、全体交流を行うことで自由交流に安心

感をもって臨めるよう学習展開を工夫した。

→意図的グループでの活動の後の自由交流は児童が安心して伝え合いをする上で有効だったか。

(2) 協働的に取り組むための手立て

①自分の長所を深く見つめるために、多くの友達とのカードの交換を行う。

本時では自分自身の長所について深く考えられるように学習展開を工夫したい。そこで自分自身の長所について多面的、多角的に見つめられるようにより多くの友達とカードの交換を行えるように留意した。

より多くの友達からフィードバックを得られるようにカードの交換を行う時間を多く確保した上で、自分の長所について考える時間を設けることとした。

このことによって新たな自分の長所に気付いたり、自分の特徴が見方を変えれば長所であることに気付いたりする児童が多くなることや自分の今後長所の伸ばし方について考えている児童が増えることを望みたい。

→多くの友達と伝え合いをしてカードの交換を行ったことは、自分の長所を深く見つめるために有効だったか。